

被害額算出表

算出表を作成した工法

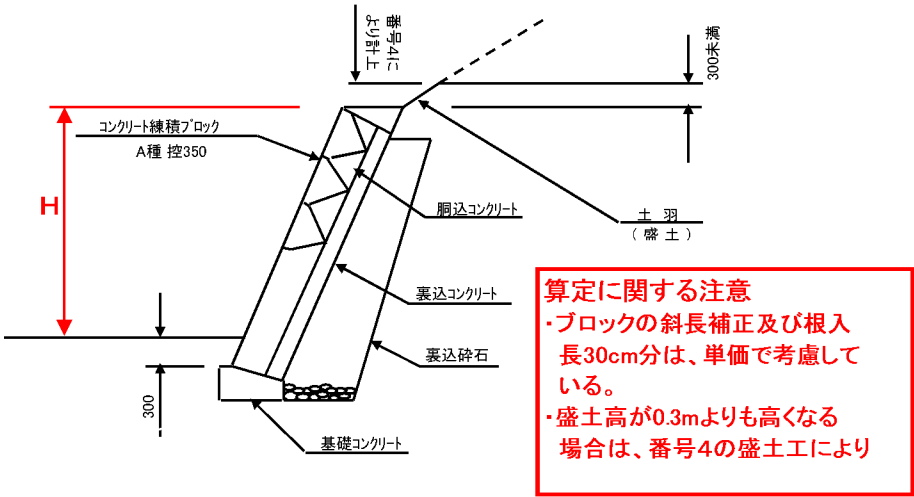
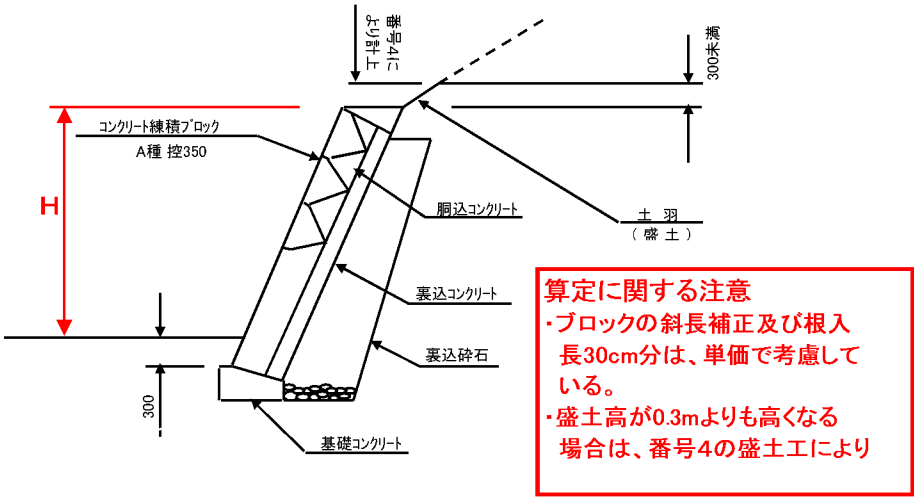
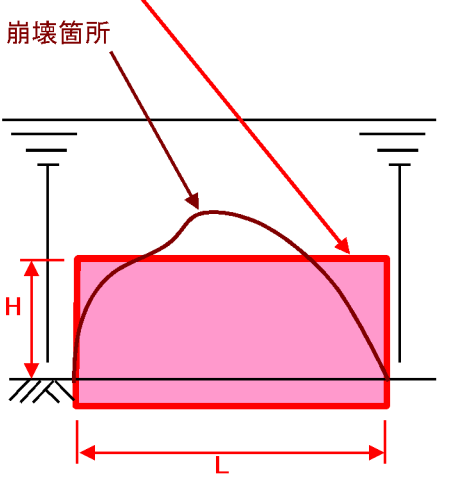
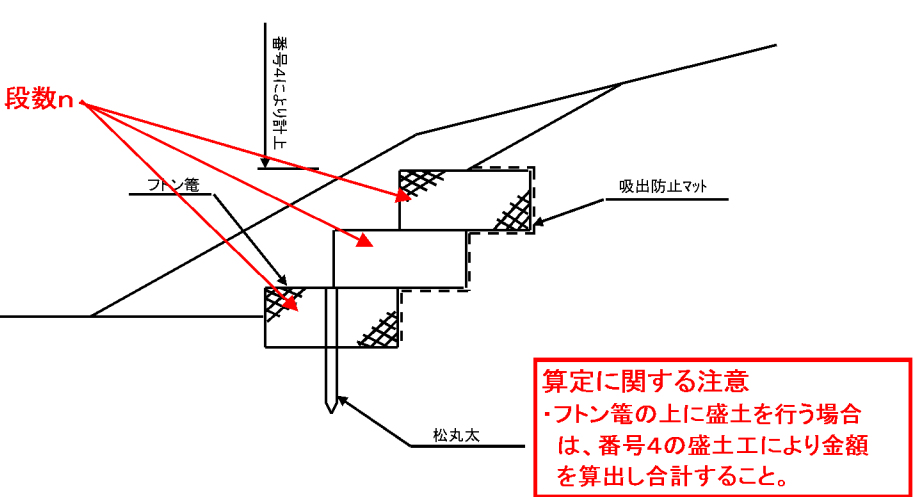
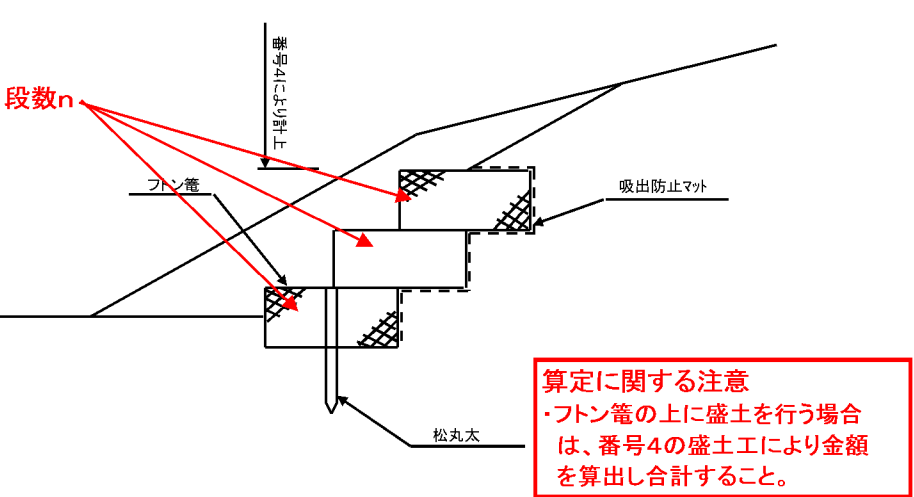
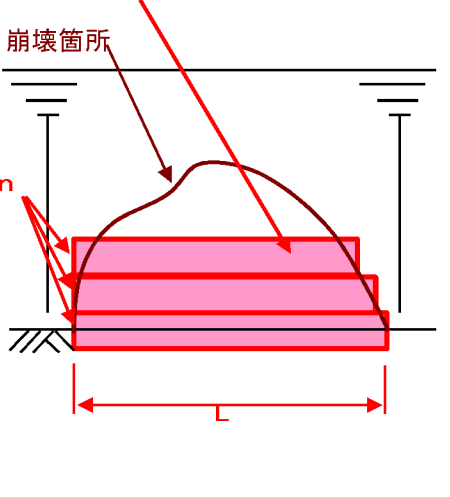
1. コンクリート練積ブロック(盛土高30cm未満)
2. フトン籠
3. 二次製品水路(幅50cm以下)
4. 盛土工
5. 頭首工(フローティングタイプ)
6. コンクリート練積ブロック(河川護岸用)
7. 排土

算出表の使用方法

1. 算出表左上に記載した「適用に関する注意」と被害箇所の条件が合致する確認する。
2. 合致すれば算出表の使用が可能であるので、表中央に記載されている①を参考に被害金額算出に必要な延長等を測定する。
3. 上記2で示した延長等と小運搬の有無及び運搬路の幅員を測定したら②に示す計算式に各種数値を代入し被害金額を算出する。
4. 現場状態により水替工が必要な場合は上記3で算出した被害金額に③に示す金額を加算する。

算出表使用にあたっての注意

1. 算出表での算出額は概算であり、事業主体において過去の事例との比較を必ず検証するとともに、
現地の状況に応じ適切な割増を行うこと。

<p>番号:1 名称:コンクリート練積ブロック(A種・控長35cm) 単位:m²</p> <p>適用に関する注意:ブロックと土羽の複合法面で、盛土高が30cm未満の場合に適用可能とする。なお、裏込コンクリート厚、ブロック勾配、背面土質は問わない。また、基礎地盤が軟弱な場合はフトン管による復旧も検討すること。</p>	<p>①:被災箇所での測定項目</p> <p>地表からのブロック高さ:H(単位:m) 施工延長:L(単位:m)</p>	<p>概略正面図</p> 								
 <p>算定に関する注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックの斜長補正及び根入長30cm分は、単価で考慮している。 ・盛土高が0.3mよりも高くなる場合は、番号4の盛土工により 	<p>②:被害金額算定方法</p> <p>$H \times L \times (60,000 + \alpha)$ 注) α は小運搬加算額</p> <p>小運搬加算額: α</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>α の値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小運搬不要</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合</td> <td>18,000</td> </tr> <tr> <td>機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場</td> <td>6,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>③:水替工加算額</p> <p>水替が必要な場合1箇所当たり200,000円加算</p>	区分	α の値	小運搬不要	0	人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合	18,000	機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場	6,000	
区分	α の値									
小運搬不要	0									
人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合	18,000									
機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場	6,000									
<p>番号:2 名称:フトン管(高50cm幅120cm網目15cm) 単位:m</p> <p>適用に関する注意:崩壊面、基礎地盤付近に湧水が確認される場合、また、基礎地盤の土質が悪くブロック積での復旧では沈下・転倒の恐れがある場合に適用可能とする。なお、フトン管1枚当りの長さは問わない。</p>	<p>①:被災箇所での測定項目</p> <p>崩壊高から想定されるフトン管段数:n 施工延長:L(単位:m)</p>	<p>概略正面図</p> 								
 <p>算定に関する注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フトン管の上に盛土を行う場合は、番号4の盛土工により金額を算出し合計すること。 	<p>②:被害金額算定方法</p> <p>$L \times n \times (21,000 + \alpha)$ 注) 段数のnを忘れずに掛けること α は小運搬加算額</p> <p>小運搬加算額: α</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>α の値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小運搬不要</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合</td> <td>7,000</td> </tr> <tr> <td>機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場</td> <td>2,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>③:水替工加算額</p> <p>水替が必要な場合1箇所当たり200,000円加算</p>	区分	α の値	小運搬不要	0	人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合	7,000	機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場	2,000	
区分	α の値									
小運搬不要	0									
人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合	7,000									
機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場	2,000									

番号:3 名称:二次製品水路 単位:m

適用に関する注意:内幅Wが500mm以下の二次製品水路を使用した復旧が考えられる場合に適用可能とする。
なお、二次製品の種類は問わない。

算定に関する注意
・水路横等で盛土を行う場合は、番号4の盛土工により金額を算出し合計すること。

二次製品水路
崩壊範囲

番号:4 名称:盛土工 単位:m³

適用に関する注意:番号1, 2, 3において、盛土が必要となる場合に適用することとし、作業種別(人力、機械)及び一本胴木の有無は問わない。

算定に関する注意
・起点及び終点で盛土断面が0となることによる土量の補正は単価で考慮している。

盛土
崩壊箇所

①:被災箇所での測定項目

上下流の水路幅:W
施工延長:L(単位:m)

②:被害金額算定方法

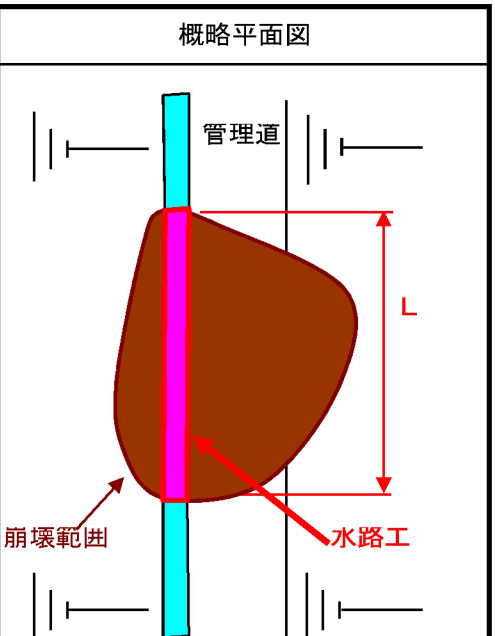
$L \times (12,000 + \alpha)$
注) α は小運搬加算額

小運搬加算額: α

区分	α の値
小運搬不要	0
人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合	1,000
機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場	1,000

③:水替工加算額

水替が必要な場合1箇所当たり200,000円加算



①:被災箇所での測定項目

盛土高:H(単位:m)
盛土幅:W(単位:m)
盛土延長:L(単位:m)

②:被害金額算定方法

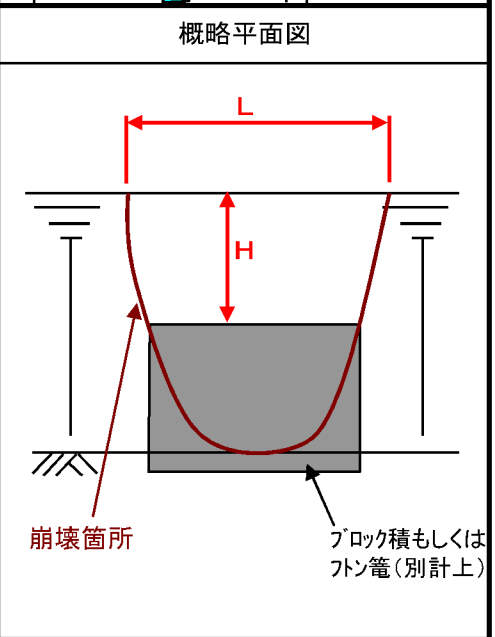
$H \times W \times L \times (4,000 + \alpha + \beta)$
注) α 、 β は購入土及び小運搬加算額

購入土を使用する場合の加算額: α

3,000

購入土に係る小運搬加算額: β

区分	β の値
小運搬不要	0
人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合	9,000
機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場	2,000



被害額算出表.xls

番号:5 | 名称:頭首工(フローティングタイプ・無筋構造物) | 単位:m3

適用に関する注意:河床面に良好な岩盤(軟岩以上)が露頭していない場合、また、土砂の堆積が厚く、堰高と同じ長さ程度の床堀では岩盤が出ないことが想定される場合に適用可能とする。

算定に関する注意
・堰高H以外の寸法については「復旧工法」p.209を参照のこと。

番号:6 | 名称:コンクリート練積ブロック(河川護岸用 A種・控長35cm) | 単位:m2

適用に関する注意:頭首工等で河川にブロック積を設置する場合に用いる。
なお、裏込コンクリート厚、ブロック勾配、背面土質は問わない。

算定に関する注意
・ブロックの斜長補正及び根入長100cm分は、単価で考慮して

①:被災箇所での測定項目

堰高:H(単位:m)
堰天端長:L(単位:m)

②:被害金額算定方法

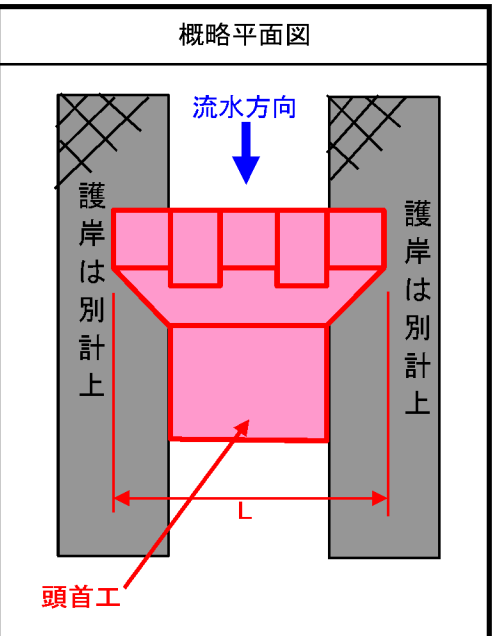
$H \times L \times (210,000 + \alpha)$
注) α は小運搬加算額

小運搬加算額: α

区分	α の値
小運搬不要	0
人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合	19,000
機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場	6,000

③:水替工加算額

水替が必要な場合1箇所当り200,000円加算



①:被災箇所での測定項目

地表からのブロック高さ:H(単位:m)
右岸側施工延長:Lr(単位:m)
左岸側施工延長:Ll(単位:m)

②:被害金額算定方法

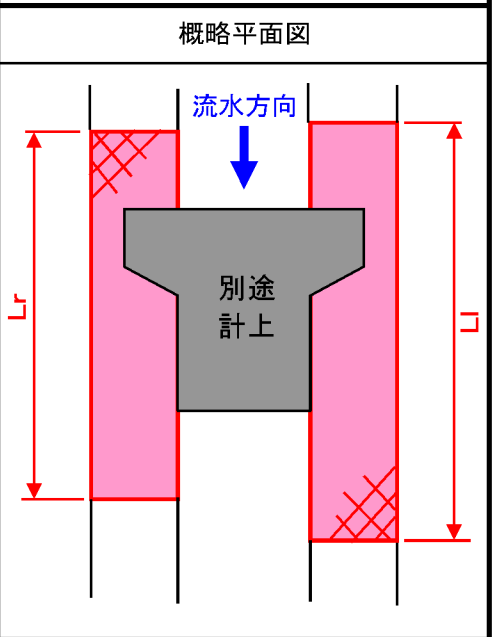
$H \times (Lr + Ll) \times (68,000 + \alpha)$
注) α は小運搬加算額

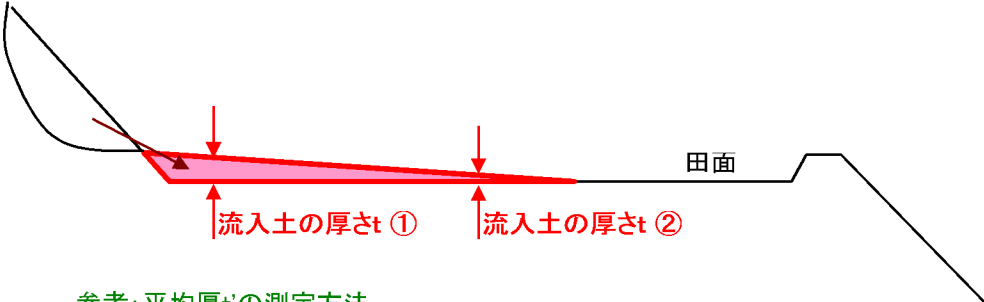
小運搬加算額: α

区分	α の値
小運搬不要	0
人力小運搬 ※運搬路幅員が1m未満の場合	16,000
機械小運搬 ※運搬路幅員が1m以上の場	5,000

③:水替工加算額

水替が必要な場合1箇所当り200,000円加算



番号:7 名称:排土 単位:m ³		概略平面図												
適用に関する注意:農地への流入土の排土については、流入土の平均厚(t')が下記の値を上回る場合に適用可能となる。(下回った場合は災害の対象外となる) 粒径1mm以下の土の堆積:t'=2cm、粒径0.25mm以下の土の堆積:t'=5cm		①:被災箇所での測定項目 流入土の厚さ:t(単位:m) 流入面積:A(単位:m ²)												
 <p>参考:平均厚t'の測定方法 流入土の厚さの測定は10a当り9~15点の試掘を行うか、レベル等により測定したものを用い、平均厚の求め方は下記のとおり。 流入土の平均厚t' = 測定した流入土厚の計÷測定点数</p>		②:被害金額算定方法 $A \times t' \times (4,000 + \alpha)$ 注) α は小運搬加算額 小運搬加算額: α <table border="1" data-bbox="1115 598 1599 774"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>αの値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小運搬不要</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人力小運搬</td> <td>9,000</td> </tr> <tr> <td>※運搬路幅員が1m未満の場合</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機械小運搬</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>※運搬路幅員が1m以上の場</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ③:水替工加算額 水替が必要な場合1箇所当り200,000円加算	区分	α の値	小運搬不要	0	人力小運搬	9,000	※運搬路幅員が1m未満の場合		機械小運搬	2,000	※運搬路幅員が1m以上の場	
区分	α の値													
小運搬不要	0													
人力小運搬	9,000													
※運搬路幅員が1m未満の場合														
機械小運搬	2,000													
※運搬路幅員が1m以上の場														
		